群教セ	G15 － 01
	令２.274集
	高ｰｷｬﾘｱ

令和２年度長期社会体験研修報告書

研修先：有限会社　高崎クエイル

長期社会体験研修員　澁澤　遼子

Ⅰ　研修内容

１　研修先の概要

有限会社高崎クエイル（以下、高崎クエイル）は、「幸せのたまごづくり」を経営理念としたウズラの卵生産を行う会社であり、ウズラの卵を使用したスイーツの直営店「う玉屋」をオープンするなど、六次産業化にも積極的に取り組んでいる企業である。１次産業としての農業、２次産業としての製造業、３次産業としての小売業等の事業との総合的かつ一体的な推進を図り、新たな付加価値を生み出す六次産業化であるが、高崎クエイルは、その多岐にわたる業務において、それぞれの専門家が能力や知識を生かし、国内のウズラ卵の出荷シェア 20%を占めている。

２　研修先での主な研修内容

(1)　加工品製造・販売接客に関わる研修【４月～10 月、２～３月】（研修場所：直営店「う玉屋」）

直営店「う玉屋」での研修では、ウズラの卵を使用した加工品（プリン、カステラ、ジェラート、チーズケーキ、クッキー）の製造、販売接客業務に携わった。製造業務では、徹底した衛生管理の下、いかに作業を効率化していくかを試行錯誤した。また、新商品の開発に向けた検討に参加させていただき、高品質の加工品製造と利益確保のバランスを調整する過程を体験することができた。販売接客業務では、お客様とのコミュニケーションを通じ、ウズラの卵の認知度を向上させることを目指し、新型コロナウイルス感染症対策、レジ袋の有料化、GoTo トラベルキャンペーンへの対応など、社会情勢に合わせた迅速な対応が大切であることや、経営の難しさを実感することができた。

(2)　生産管理に関わる研修【11 月～１月 17 日】（研修場所：赤城農場）

赤城農場での研修では、飼育管理業務全般に携わった。毎朝の採卵、飼育舎の清掃、給餌の作業から、生き物を扱う難しさを学んだ。また、ひな鳥の雌雄鑑別や産卵量調整など、高い専門技術を身近で見学させていただき、農業という職業のやりがい、食料を生産する責任の重さを従業員の方々から感じ取ることができた。

(3)　商品包装・流通に関わる研修【１月 18 日～31 日】（研修場所：パックセンター）

パックセンターの研修では、卵の洗浄、殺菌、包装、全国への発送業務に携わった。生産者と消費者を結ぶ役割として、品質がよく、安全性の高い卵をお客様に届けるための工夫や配慮を随所に見ることができた。また、従業員の連携を緊密にすることで、迅速な業務遂行が可能になることを間近で体験し、職場の雰囲気づくりの大切さを実感することができた。

３　キャリア教育実践

(1)　キャリア教育資料について

高崎クエイルでの研修を通して、企業はめまぐるしい社会情勢に合わせて日々変化していることを感じ、SDGs（Sustainable Development Goals）に焦点を当てリーフレットを作成した。SDGs とは、国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成すべき持続可能な開発目標であり、現在、国だけでなく多くの企業が取り組んでいる。リーフレットでは、このような現在の社会情勢の中で、企業が求める人材、これからの農業を支える人材になるための一つの手段として、プロジェクト学習を提示した。あるテーマについて課題設定・計画立案・実行・反省評価・改善を繰り返し行うことで、課題解決の能力だけでなく、リーダーシップ・コミュニケーション能力・分析力・考察力などが身に付くプロジェクト学習の有益性を生徒に向けて掲載した。

(2)　実践の概要（県立勢多農林高等学校）

授業実践

題材名　「地場産業で自己分析　高校生のうちに身に付けておきたいこと」（学級活動）

対　象　食品文化科 食品科学コース 第３学年　20 名

対象生徒は、食品についての科学的な知識を基礎に、食品加工や地域特産物の食品への利用について専門的な学習を行っている。授業実践時、８割の生徒の進路が決定しており、卒業までの学校生活をどう過ごすべきかを考えることを目的に授業を行った。授業では、研修先である高崎クエイルの六次産業化した企業形態からグループワークを展開し、各業務に必要な社会人基礎力を考え、生徒自身の適性を見直すことができるよう工夫した。また、人が生きるために農業がいかに重要であるか、農業高校で学んだ生徒として再認識させるよう授業を実践した。

Ⅱ　研修成果

１　加工品製造に関わる研修について

直営店「う玉屋」での研修から、食品製造の基礎基本を改めて学ぶことができた。まず、製造実習にて、製造業・サービス業などの職場環境の維持改善で用いられるスローガンである５S（整理、整頓、清掃、清潔、躾）の取組を学校現場でも定着させ、食に携わるために衛生管理を徹底する必要性を理解することができた。また、現在問題となっている食品ロスの増加についても、生産者としての立場からその深刻性を実感した。食品廃棄物に関する意識の改善に向け、研修での経験を今後の指導に役立てていきたい。

２　生産管理に関わる研修について

農場での生産業務の研修から、農業の重要性を実感することができた。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による安全性確保のため、学校の休校、商業施設・飲食店等の営業自粛が注目される中、生き物を相手にする高崎クエイルの業務は中断することができなかった。従業員の安全確保、利益減少への対策など、暗中模索しながらの業務であったが、エッセンシャルワーカーとして、ヒトの生命活動を支える責任の重さを学んだ。また、畜産経営には、生産物の専門的な知識や技能の習得はもちろんのこと、家畜伝染病の理解、発生状況の把握など情報収集が大切であることを知り、学校現場においても、生徒が常日頃から時事問題への興味関心を高めることができる指導をしていきたい。

３　キャリア教育実践について

自分の長所や適性、また社会に出るためにどう準備すればよいか分からず、不安を感じる生徒が少なくないことが生徒へのアンケートで分かった。実践では、高崎クエイルの業務から、自分の適性を見直し、普段生活を共にする友人から評価を得る機会を生徒に提供した。また、リーフレットでは、SDGs 達成を目指す企業が求める人材になるための手段として、プロジェクト学習を紹介するなど、課題解決という目標をもち、学校生活を有意義に過ごすことの大切さを伝えることができた。

Ⅲ　まとめ

毎日の何気ない「いただきます」という言葉の重みを実感した一年であった。ウズラの卵の生産、加工、流通という六次産業化した農業を体験し、一つの食材が食卓に上がるまでに多くの職業、人が関わっていることを改めて学んだ。農業科の教員として、これら食に関わる職業を目指す生徒にこの研修で感じたことを還元していきたい。また、これから変化の激しい世の中に出ていく生徒にとって、高校生活で身に付けるべき能力をキャリア教育の視点から考えるよい契機となった。本研修で学んだことを今後の教育活動に生かし、生徒の自己実現のために貢献していきたい。

（担当指導主事　相京　貴志）